

令和7年度 教 育 計 画						学校番号 32	
新居浜市立中萩小学校							
校長名	畑野 一恵	学級数	32 (8)	児 童 生徒数	791	教職員数	47

中萩小学校グランドデザイン



学 校 の 教 育 目 標

豊かな心を持ち、主体的でたくましく生きる子を育てる



学校像

潤いと活気のある
「楽しい」学校
やさしさのあふれる
「明るい」学校

児童像

- ㊦ かよく助け合う子
- ㊦ からだをきたえがんばる子
- ㊦ はきはきと表現する子
- ㊦ きもんをもちかんがえる子

教師像

明るく熱意のある教師
子どもと感動を共有する教師
学び続け成長する教師
地域にとけこむ教師

はじめに子どもありき

確かな学力

- 基礎・基本の定着
- 「聴いて、考え、伝え合う力」の育成
 - ・ 学習のルールの確立「人のことを大切に聞く」
 - ・ 授業改善（ユニバーサルデザインの視点）
 - ・ 萩っ子チャレンジ ・ ICT機器の有効活用
 - ・ 学校図書館の積極的活用
 - ・ 家庭学習の充実（学習の手引き）

豊かな心

- 豊かな体験活動の充実
- 支え合う仲間づくりの推進
 - ・ 豊かな感性を育てる体験学習の充実
 - ・ ルールとリレーションのバランスのとれた集団づくり「勇気づけのボイスシャワー」
 - ・ あいさつ、「はい」の返事、黙働の重視
 - ・ ふるさとを愛する心を育てる ESD の推進

生きる力

健やかな体

- たくましく生きる力の育成
- 学校給食を通した食育の推進
 - ・ 外遊び、運動の奨励と体力向上
 - ・ 食に関する授業の充実
 - ・ 基本的生活習慣の確立

との連携
家庭・地域

小中
連携

- ・ 児童、生徒の交流
- ・ 教職員の交流
- ・ PTA 活動の交流

コミュニティ・スクールの推進

<開かれた学校>

- ★ 地域の教育力を活用した体験的な学習
- ★ 積極的な授業公開と情報発信や対話
- ★ 学校評価、学校関係者評価の活用



<中萩中学校区の教育目標>

『学校と家庭と地域が連携・協働して
子どもの生きる力を育もう』

<目指す子どもの姿>

- ★ 社会のルールをしっかりと守ることができる子
- ★ 思いやりがあり、明るく元気な子
- ★ あいさつや言葉づかいが良く、自主性のある子

重点目標	1 確かな学力の育成 (1) 基礎基本の確実な定着と、分かる授業のための指導方法や指導体制の工夫改善 (2) 学校図書館を積極的に活用した調べ学習等の推進 (3) ICT機器(電子黒板・タブレット等)を効果的に活用した授業づくり 2 豊かな心の育成 (1) ルールとリレーションのバランスのとれた集団づくりの推進 「人のことを大切に聞くこと」「勇気づけのボイスシャワー」 (2) 一人一人の特性、個性、発達段階等、教育的ニーズに応じた指導・支援の充実 「見方を変えて味方になる」 (3) 人権尊重の意識を育み、自分を振り返り行動する主体性の確立 3 健やかな体の育成 (1) 食育と関連した健康的な生活指導や体力づくりの推進 (2) えひめ子どもスポーツITスタジアムへの積極的な参加による体力向上 (3) 日常的な感染症対策の徹底 4 開かれた学校づくりの推進 ～社会や地域と共に育つ学校～(TEAM NAKAHAGI) (1) 地域の教育力を活用した体験的な学習や総合的な学習の時間の充実 (2) 学校・保護者・地域が共に子どもを守り育てていくコミュニティ・スクールの推進 (3) 積極的な情報発信や対話と連携による信頼される学校づくりの推進
管理運営	1 人的管理 (1) コミュニケーションを密にした風通しの良い職場づくり (2) 教職員相互が支え合い、共に高め合うチームワークの育成 (3) 心身の健康管理と業務改善によるワーク・ライフ・バランスの充実 (4) 服務規律の徹底による信用失墜行為の防止 2 物的管理 (1) 豊かな情操を育む落ち着いた教育環境づくり (2) 学校内外における危険箇所の早期発見と早期対応 (3) 施設・設備・備品等の適切な管理と有効活用 3 事務管理 (1) 校務分掌の適正な遂行と協働体制の確立 (2) 校務支援システムの活用による校務の効率化 (3) 諸帳簿、個人情報等の整理及び厳正な管理
本校教育の特色	本校は、明治26年に中萩尋常小学校として創立され、今年で132年目を迎える。 校区が広く、多様な個性の集まった新居浜市で一番大きな学校である。一小一中という校区の利点を生かし、コミュニティ・スクールの機能を活性化しながら、自分の良さを伸ばし、夢や希望を育んでいける学校、創意と活力のある学校づくりを目指している。 「はじめに子どもありき」を基本姿勢とし、「なかよく助け合う子」「からだをきたえがんばる子」「はきはきと表現する子」「ぎもんをもちかんがえる子」の育成に努めている。